

「アジア研究教育ユニット派遣プログラム 参加報告書」

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
博士一貫課程3年 中村 友香

①派遣プログラムの内容

本調査では、慢性の病い、特に糖尿病に関して、患者と家族、治療者がどのような解釈を行い、治療実践やケアに取り組んでいるかを、三者の相互関係に着目して明らかにすることを目的とした。本研究では、農村部に関しては、ネパール中西部のロールパ郡、ルクム郡、都市部に関しては、カトマンズ市及びラリトプール市を対象に調査を行った。農村部及び都市部の両方の患者と家族を対象にしたインタビューにおいては、慢性の病いの語り、家庭における自己管理、医療機関や治療者の選択についての調査を行った。また都市部においては、糖尿病患者（痛風、高血圧などを併発している）の生活の参与観察及び、糖尿病と甲状腺関連病を専門とする専門病院において診察と治療の現場について参与観察を行った。近代医療に関連する治療や診察の他に、伝統的なアーユルベダ医療施設や、ホメオパシー施設、ナチュロパシー施設などの訪問と情報収集も行った。本派遣では、こうした施設における十分な調査を行うことはできなかった。そのため、次回の渡航においては、近代医療にとどまらず、こうした多様な治療施設や治療従事者、またこうした施設を利用する患者たちについてもインタビュー調査を行う予定である。

②学習成果について

本派遣は、研究課題であるネパールにおける慢性の病いに関する調査のうち、特に糖尿病をめぐる様相について理解する機会となった。これまで、博士予備論文の執筆のため、ネパール中西部山岳地域にて調査を進めてきたが、本派遣においては、同地域における糖尿病の治療状況の調査を進めると同時に、そうした山岳地域の住民や都市部の住民が、糖尿病治療を通して、どのような経験をしているのかについて、主に都市部の医療機関で参与観察をする機会を得た。ネパール都市部の大規模医療機関には、インドの大規模病院にアクセスする方が安価で容易であると考え一部の地域の住民を除く、多くの裕福層を中心とした患者が都市部及び農村部から治療のため集まってくる。こうした場所で調査を行うことにより、農村地域住民が治療のための移動も含めてどのような経験をしているのかを明らかにするという成果を上げることができたと考え。こうした近代医療をめぐる様相の他に、糖尿病を患った患者自身による、身体状況に関する知識の収集やその活動をめぐるインタビューも始めることができた。これまで、こうした調査対象へアクセスすることが困難であったが、今回の調査において、ネパール人の協力者を経て、こうした自己管理を積極的に進める非医療従事者たちへのインタビューを実施した。今回の成果に基づいて、こうした民間の知識の発展状況についても調査を進めて行くことが可能になるだろう。

③海外での経験について

本派遣では、語学力の向上に力を入れ、全インタビューをネパール語で行った。それにより、英語の聞き取りでは理解することが難しかった、身体に関する表現や習慣をよりよく理解することができた。また6カ月間にわたる留学では、ホームステイを体験し、ネパール人の生活をより間近で知ることができた。研究に関連するものとしては、日々の食生活（調味料の種類や使用量、食事の時間に関する考え方）や、簡単な体調不良への対処、食べ物と体調をめぐる民間的な知識、水や衛生観念、環境問題に関する語りなどを聞き、現地の人の感覚を学ぶことができた。その他にも、結婚式やロータリークラブ及び宗教団体の行う社会活動への参加などを通じて、ネパール文化や現代社会の状況についても知ることができた。また、今回の渡航においては、現地の大学や人文・社会科学を中心とする研究機関の研究会や集いに積極的に参加する機会を得た。それにより、現地の研究者や学生と多くの交流を図る機会を得、現地における文化人類学及び社会学の研究動向を知ることができた。これにより、自らの研究に対する、現地の研究者たちからの意見やアドバイスを得る機会も増え、研究生活がより充実したものとなった。

④今後の展望

慢性の病い、特に糖尿病及に関する知識及びネパールにおける動きを知る中で、より深い医学・公衆衛生的知識も養いたいと言う気持ちが高まった。慢性の病いに関する地域性を理解するために、ネパールにとどまらず、日本や他の南アジアの国々において、糖尿病をはじめとする新興の慢性疾患として扱われる病気に関する状況を理解していきたいと考える。また、医療をめぐる商業主義の拡大が見られるネパールにおいて、薬剤や医療器具、健康食品等のインドから輸入が著しいと言う現状を理解した。そのため、インドにおける医薬品に関する理解を深めることが必要であると考えに至った。今後はこうした視点から、より、動的かつ多角的に慢性疾患をめぐるネパールの状況を読みとるよう努める。

学術的な研究課題の方向性が以上のように発展したのに加え、ネパールにおける医療現場や地域医療の現状を知ることを通じては、医療状況の改善や地域に即した医療のあり方の提案に実践者もしくは実践協力者として取り組んでいきたいと考えるようになった。